

平成25年度 大河原小学校教育目標の具現化に向けての桜花児童プラン

学校教育目標

自他の命を大切にし、豊かな人間性と創造性、将来への夢や志をもってたくましく生きる、心身ともに健康な児童の育成

重点課題

- 1 相手のことを考え、親切にできる児童の育成
- 2 基本的な学習内容を身に付け、自分で考え、判断し、行動できる児童の育成
- 3 健康な心身と基礎体力の育成
- 4 集団への所属感や連帯感の育成
- 5 心をときめかせ、目をかがやかせる授業(楽しく・分かる授業)の工夫
- 6 地域の「もの」「ひと」「こと」を活用した教育活動の推進
- 7 教育のプロとしての自覚をもって、児童とともに歩み続けていく教師

具体目標

【徳育】

基本的な生活習慣、思いやりや協力の気持ち、規範意識等の道徳性を養う

【知育】

基本的な学習内容を身に付け、自ら考え正しく判断する能力を養う

【体育】

健康でたくましい体とがんばり抜く気力を養う

めざす児童像

『笑顔いっぱい』

【思いやりのある子ども】

- ・みんなと協力し思いやりのある子ども
- ・礼儀正しく決まりを守る子ども

『勉強いっぱい』

【自ら学びとる子ども】

- ・よく考え工夫する子ども
- ・自分で課題を見つけ取り組む子ども

『元気いっぱい』

【進んで体をきたえる子ども】

- ・健康でよく働く子ども
- ・ねばり強くがんばりぬく子ども

経営方針

自律的な学校と開かれた経営、主体的に実践・行動する教職員

子どもたちに、自ら学び、自ら考え、行動することができる力といった「生きる力」を身に付けさせるために、なによりも教職員自身が自ら学び、考える力を身に付け、主体的に実践・行動できる自主性・自律性を身に付けていく。そして、教育目標の実現をめざして、組織的・計画的に全力で教育活動の展開に努める。

【歴史と伝統の重視】

○地域や子どもの実態を生かした教育

【魅力ある学校の創造】

○教育環境の美化と整備・充実

【教職員の英知の結集】

○勤務は厳しく、研修は鋭く、職場は楽しく

本年度の重点と努力事項

- 1 教育課程の改善
- 2 学習指導の充実
- 3 心を育む教育活動の充実
- 4 学年・学級経営の充実
- 5 積極的な生徒指導
- 6 保健・安全指導の徹底
- 7 特別支援教育の充実
- 8 特色ある教育活動の推進(伝統と文化を生かした教育)
- 9 体力と耐力づくりの推進
- 10 研究主題に基づく校内研究と教員一人一人の授業力の向上を図る取組の充実

めざす児童像達成に向けてのアクションプラン

- 1 学習活動を進めるに当たっては、地域の「もの」「ひと」「こと」の活用を図る。また、このような取り組みを通して開かれた学校をめざす。
- 2 運動会、音楽発表会、修学旅行、野外体験学習等の学習活動を、総合的な学習の時間のねらいとの関係をふまえて計画・実施し、教育効果を高めていく。
- 3 時間割を工夫して、一部ノーチャイム制を行い、弾力的な運営で教育活動を展開する。
- 4 児童一人一人が集団の一員としての所属感をもてるような学年・学級経営や教育活動を行う。
- 5 授業での指導力の向上を図るため、全員が校内の研究テーマに基づき授業研究を行う。
- 6 各教科等の中で国際理解教育を積極的に進めるとともに、ALTの有効な活用を図り、国際社会に生きる日本人としての自覚を養う。
- 7 コンピュータを教科等の学習活動や図書管理に有効に活用する。
- 8 保護者との連携を強化するため、家庭訪問や学級懇談の機会を利用する。また学校だより(毎月)や学年・学級だより(随時)を発行したり、2・3学期に自由参観日を設定し、保護者や地域の皆様に参観していただき教育活動への理解を図る。
- 9 教育専門職としての資質・能力・指導技術の向上を図るため、毎週水曜日を研修日とし、各教科等の指導改善を図るなど、日常の教育活動に直結する研修に努める。
- 10 第2・3学期の始業式、第1・2学期の終業式は、4時間授業を行い、授業時数の確保に努める。

『笑顔いっぱい』

【思いやりのある子ども】

- 1 エコキャップ運動、募金等の活動を取り入れ「思いやりの心」や「協力の心」を育てる。
- 2 児童会と連携を図り、あいさつ運動を実施し「あいさつのできる子ども」を育てる。そのためにも、教職員自ら範を示す。
- 3 基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を徹底するとともに、カウンセリングマインドに基づいた対応を行う。
- 4 魅力ある道徳の時間にするために、資料の開発や指導の工夫・改善を図る。
- 5 特別支援学級と通常学校との相互交流学習を積極的に進める。
- 6 授業参観では、年1回道徳の授業を行う。
- 7 愛校心や勤労を学ばせるために、清掃活動に力を入れて取り組む。
- 8 友達のよさに気付かせる取組を行う。
- 9 行事等や伝統文化教育の充実を図り、人格の形成や豊かな人間性を育成する。
- 10 地域社会の一員としての自覚を育てるため、地域の行事に積極的に参加する。

『勉強いっぱい』

【自ら学びとる子ども】

- 1 少人数指導(算数：3年生以上)や個別指導(全学年)を取り入れ、「読み」「書き」「計算」の確実な定着を図る。
- 2 3・4年生の理科の授業に専科教員、5・6年生の教科等の授業では一部教科担任制を取り入れ、教科指導や生徒指導の充実を図る。また、他の学年でも、教師の専門性やよさを生かした授業を行うため、学年内の交換授業を行っていく。
- 3 毎週火・水・木曜日に、「朝の10分間読書」を設定し、読書の奨励を行うとともに、読書環境整備を行う。
- 4 長期休業中の学習支援を実施する。
- 5 月曜日の放課後に、算数を中心とした補充学習を行う。
- 6 学校図書を充実させ、知的好奇心や探求心を高め、問題を発見し解決する能力を育成する。
- 7 家庭との連携を図り、家庭での学習習慣の確立を図る(ノーゲームデー)。

『元気いっぱい』

【進んで体をきたえる子ども】

- 1 児童の健康増進と体力の向上を図るとともに、運動の楽しさを味わわせるために、縄跳びや水泳、持久走ではカード等を作成し取り組ませる。また、業間には、外遊びを奨励し、友達との関わりを深めるとともに、スポーツタイム等を活用し体を動かすことの楽しさを味わわせる。
- 2 安全教育・防犯教育の充実と危機回避能力を育成する(交通安全教室、定期的に行う避難訓練の実施)また、教職員への危機管理研修を実施する。
- 3 登下校時の安全を確保するために「見守り隊」との連携や「緊急メール配信システム」等の有効な活用を図る。
- 4 毎月1と15の日、春と秋の交通安全運動期間に朝の街頭指導を行い、交通安全とあいさつの定着化を図る。
- 5 健康診断の結果を基にして、児童一人一人の実態に合った指導を行う。